
花影

伴月 吾妻

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

花影

【Zマーク】

Z5666A

【作者名】

偉月 吾妻

【あらすじ】

十五夜お月をまひとつぼち月と桜だけの真実。

(前書き)

初めて書いたホラーなので理解が難しいかもしれませんが暖かい目で見守って頂ければ幸いです。

十五夜お月さま
ひとりぼち
桜ふぶきの
花かげに
花嫁すがたの
おねえさま

くるまにあられてももつた

十五夜お月さま
見てたでしう
桜ふぶきの
花かげに
花嫁すがたの
ねえさまと
わかれおしんで
なきました

十五夜お月さま
ひとりぼち
桜ふぶきの
花かげに
遠いお里の
おねえさま
わたしひひとりこ
なりました

夕月が綺麗な夜。
桜吹雪が舞つていた。

紅い

血濡れの桜吹雪。

多分……否、全て僕の責任か、それとも紅黒い月か。

僕らは小さな丘の上に居た。

理由は……罪滅ぼし。

五年前の十五夜の夜。

僕らは禁忌を犯した。

繋がる血を断ち切つて、絡まる罪悪感を振り切つて。
追つてくる血を切り刻んで。

僕と彼女と“アレ”は正真正銘血の繋がった兄妹。正確に言えば
兄妹“だつた”。

僕と彼女が結ばれるのには“アレ”は邪魔だつたんだ。

目撃者は消さなくちゃ。

仕方の無い事だつたんだよ。

でも“アレ”は僕らに『五年後迎えにくる』確かにそう言った。

強い風が吹いた。

そして彼女は連れていかれた。

自分のいる桜の木の上に。

血の匂いと桜の匂いでクラクラする。

もう一度強い風が吹いた。

声が聞こえる。

喉から息をしているかのよつな音と共に

花かげの唄が。

相変わらず月は桜と一緒に紅黒い。

紅く
黒い

僕のよつに。

気が付けば世界は反転していく。
目を開けば目の前には月が。

花影に血が滴る。
紅い桜吹雪と共に。

ひらり

ぼたり

ひらり

桜の下に幼女が一人。

喉から息をしているかのよつな声で。

唄っていた。

十五夜お月さま

ひとりぼち

桜ふぶきの

花かげに

花嫁すがたの

おねえさま

くるまにゆりれてゆきました

十五夜お月さま
見てたでしょう

桜ふぶきの

花かげに

花嫁すがたの

ねえさまと

わかれおしんで
なきました

十五夜お月さま

ひとりぼち

桜ふぶきの

花かげに

遠いお里の

おねえさま

わたしはひとりに
なりました

月と桜だけの真実。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5666a/>

花影

2010年10月12日02時40分発行